

# 「おばあちゃん」の言葉に報いる答え

～日韓高校生交流事業に参加して～

同志社香里高等学校3年 塩田 愛実

「これからは今の日本と韓国は近隣諸国として仲良くするべきなんだよ！」

日本海を挟んで向かい合う、近くて遠い国で聞いたこの言葉は、再び変わらない日常に戻った私の心に今でも残っている。

私は語学の勉強が好きで、小さい頃から英会話にも通っていたため、国際交流には高い関心がありました。また親戚がドバイなどの海外勤務をしていることもあり、赴任先に遊びに行って海外での仕事の話などを聞く機会もありました。そのような話を聞いているうちに、私もいつか海外で仕事が出来ればと憧れるようになり、また世界の色々な国の人々とコミュニケーションすることに憧れるようになりました。そのような思いから、私は将来、最低でも三ヶ国語は話せるようになりたいと考えています。自分の努力次第で世界の人々と英語でコミュニケーションが出来るはずですし、英語だけではなく、欲張りかもしれませんが、もう一ヶ国語話せるようになればもっとコミュニケーションが広がると思っています。そして、三ヶ国語目は韓国語にしようと思いました。韓国語は家族がたまに韓国ドラマを見ているので身近だなと思ったことと、今までに二度訪れた韓国で感じた人々の温かさや文化が好きになったからです。

私は日韓高校生交流事業の一環として、今年の夏休みの1ヶ月間、韓国に留学してきました。韓国には興味があり、以前にも二度訪れたことはありましたが、1カ月という長期間韓国に滞在することは初めてでした。ただ、韓国語はもともと独学で少しだけ勉強をしていましたが、本格的に勉強を始めたのは今年の四月からだったので、英語圏ではない韓国に留学することが不安でした。さらに、留学経験のない私があまり言葉の通じない韓国で1ヶ月間やっていけるのか不安を感じていました。

しかし、実際に韓国での留学が始まると不安は徐々に解消されていき、楽しい毎日を送

ることができました。

韓国の高校では皆が私を歓迎してくれました。毎朝、校門では生活指導の先生が笑顔で迎えてくださいました。しかし、韓国の学校では体罰は当たり前です。その先生は必ず棒を持っていて、制服の乱れや、態度が悪いと、その棒で生徒を叩きます。私は何度かその光景を目の当たりにしたので、大変驚かされました。

韓国の高校生は大変勉強熱心です。また日本に興味があるので、私にたくさん話しかけてくれました。そのおかげで私はすごく韓国語を聞き取れるようになりました。韓国の生徒たちも私に話しかけようと必死で日本語の勉強をしてくれたので、お互いの言語について理解を深めました。私は自分が韓国語と韓国の文化を学ぶだけでなく、韓国の人に日本語や日本の文化について伝えることができたので貴重な経験となりました。

このような楽しい毎日を送る中で考えさせられることもたくさんありました。日常生活では路線バスや地下鉄に乗る機会が多く、韓国の人々の身近な生活が体験出来ました。地下鉄の電車の中で物を売る人、携帯で電話する人、ワンセグでテレビを見る人、募金活動をする人、年上の人に席を譲る人、若い人は絶対に座らない優先座席、迷彩服を着た兵隊……日本とは違う異文化を体験しているという気持ちになれる場所では、とにかく周りを観察するようにしました。韓国は儒教の国なので目上の人を敬い、誰もがお年寄りには大変親切です。駅の階段でお年寄りが大きな荷物を持っていれば見ず知らずの人でも荷物を運んであげます。日本ではそのような親切な人はあまり見かけることがありません。日本人の私が地図を広げて立ち止まっていれば、必ず誰かが声をかけて助けてくれます。お年寄りだけでなく誰にでも親切にしてくれるのです。

考えさせる出来事が多くあった中で一番大きかったのは、今年の八月十五日が韓国にとって記念すべき日であったということです。日本が朝鮮半島を支配、統治することとなった「日韓併合条約」が締結された1910年から2010年で日韓併合100周年という節目を迎えていました。日本にとっての八月十五日は、戦争に負けた日であっても、韓国にとっての八月十五日は、「日本から解放された」「日本から独立した」という意味合いをもつ日なのです。私は日本人としてこの八月十五日をどう過ごそうかと考えました。私のホストファミリーは私に気を遣って下さり、晩御飯のときにテレビを見ていても、日韓併合100周年のニュー

スであれば、ひたすらチャンネルを娯楽番組に変えていました。きっと日本人が韓国人に対して行ったひどい行いや、日本が悪いという報道に気を遣っていたのだと思います。しかし、私はこのような歴史的な瞬間に日本が行った過去の出来事を直視しなければいけないと思い、自分の部屋に戻ってテレビのニュースを一人で見ました。やはり記念の日なので、日韓併合100周年を迎えるにあたってのイ・ミョンバク大統領の演説や日本について語るニュースが多くあり、チャンネルを変えながら必死で見っていました。ニュースを見ると、ホストシスターである中学生のヘジンに見つかり、二人でニュースを見ることになりました。彼女は「難しいことだよ」と言いながら、詳しく私に説明してくれました。まだ中学1年生にもかかわらず、日本との過去の関わりについて詳しく語る彼女に驚かされ、日本と韓国の教育の違いを感じずにはいられませんでした。

ホストファミリー家の近所に住む「おばあちゃん」との出会いも私にとって貴重な体験でした。おばあちゃんが散歩に連れていた犬種が、私の飼っているヨークシャテリアと同じだったので、犬に触りたくなくなってしまいました。その様子を見たおばあちゃんは私に話しかけてくださったのですが、その韓国語を聞き取ることができず、「すみません。私は日本人です。」と韓国語で答えました。すると、おばあちゃんはなんと日本語を話し始めたのです。驚きを隠せなかったものの、日本語で話してくださったのですぐにどのような意味か理解できました。その後もおばあちゃんと会う機会があり、そのたびに言葉を交わしました。おばあちゃんは戦争のことを話してくださり、日本人が怖くてみんな怯えていたことや、日本語や日本のことしか勉強できなかったこと、日本人の軍人の奥さんに勉強を習ったこと、日本人のためにお米を作っていたこと、さらには北朝鮮と韓国についても教えて下さいました。私は日本人なので、おばあちゃんに嫌がられるかもしれないと思ったのですが、おばあちゃんはとても優しく私を受け入れて下さいました。日本が韓国の人々に対してどのようなことを行ったのかは歴史などで習っていたので知っていましたが、実際にその時代に生きた人から直接話を聞いた事は私にとって大変貴重な体験でした。そして、おばあちゃんに「これからは今の日本と韓国は近隣諸国として仲良くするべきなんだよ！」と言われたときは言葉に言い尽くせないような喜びを感じました。おばあちゃんは北朝鮮についても「同じ民族としてほっておけないし、いつかは統一するべきなんだよ。」

とおっしゃっていて視野の広さや懐の深さに感心しきりでした。「おばあちゃん」が偶然にも私のホストファミリーの隣の家に住んでいたこと……このことに不思議な縁を感じずにはられませんでした。

たった1か月の留学。しかし、その中には今まで経験することのなかった異文化体験とたくさんの素敵な出会いがありました。これからますます広がってゆくグローバル社会において、さまざまな国際交流を体験していることは大きな糧となっていきます。日本語以外の言語でも自分の意見を伝えることが出来るようになりたいと思った自分の気持ちに間違いはありません。しかし、そのことに加えて自分の文化を見つめ直し相手の文化も尊重できるような人間となること、そのような人間になって国際社会で活躍できるようになること……それが「おばあちゃん」の言葉に報いる答えだと信じています。